

# 水の 話

FujiClean NEWS

2024  
Hello New Year

No.202

[特集]

ふしみず  
酒処を支え続ける京の伏水。

京都・伏見の豊かな地下水と酒造りの歴史





# 酒処を支え続ける 京の伏水。

酒蔵に沿って流れる瀬川と十石舟



藤森神社の境内に湧出する伏見の伏流水

## DATA

2023年9月1日現在

京都市伏見区(人口272,523人 世帯数133,599世帯)

京都市の南東部に位置する伏見区は、1931(昭和6)年に伏見市、深草町、醍醐村など9市町村と京都市との合併・編入によって誕生。その後、1950(昭和25)年に羽東師村、久我村、1957(昭和32)年に淀町を編入し、現在は人口約27万人の京都市内で最も人口の多い行政区です。区内には、桂川、宇治川などが流れ、まちには神社仏閣、酒蔵や名所史跡など、かつての城下町の風情が残されています。



## 京都市伏見の豊かな地下水と酒造りの歴史

一升の酒に、八升の水がいるといわれる酒造り。

そのため良質の豊富な水に恵まれることが、酒造地の条件といえます。

かつて“伏水”とも書かれていたほどに、質の高い伏流水が豊富な京都市伏見。

日本有数の酒処にたどり着いたまちの歴史と、それを支えた名水を紹介します。

【取材協力・写真提供・資料提供】  
○ 月桂冠株式会社

【参考資料】

- 水と暮らしの環境文化 京都から世界へつなぐ(梶田 劭・嘉田 由紀子 編者/株式会社昭和堂 発行)
- もっと知りたい!水の都 京都(鈴木康久 大滝裕一 平野圭祐 編著/株式会社人文書院 発行)
- 京都を学ぶ[伏見編](京都学研究会 編/株式会社ナカニシヤ出版 発行)
- 水が語る京の暮らし・伝統・名水・食の文化(鈴木康久 著/株式会社白川書院 発行)
- 月桂冠 [Webサイト](https://www.gekkeikan.co.jp/enjoy/) <https://www.gekkeikan.co.jp/enjoy/>
- 伏見醸友会創立100周年 [Webサイト](http://fushimi.or.jp/joyukai/100th/) <http://fushimi.or.jp/joyukai/100th/>



# 伏見の港町・宿場町としての繁栄と酒造業の歴史。

## 京都盆地に水を蓄える巨大なみずがめ

日本の古く美しい文化を伝え、「千年の都」として国内外の人々から愛される京都。山紫水明の言葉に象徴されるように、河川などの豊富な水環境によってさまざまな文化が育まれてきました。この水の豊かさが、794(延暦13)年の平安京遷都の時代から都としての京都を支えてきたのではないのでしょうか。明治時代に琵琶湖疏水が完成する頃までは、誰もが3~4メートルの深さにある井戸水を飲んでいました。現在は、右京に桂川、左京に鴨川が流れ、まちを取り囲む三方の山々に降った雨水が、川の流れとともに地下に染み込み蓄えられています。近年の研究から、京都盆地に溜まった地下水量は、琵琶湖水に匹敵する211億トンにもなることがわかっており、これを「京都水盆」と呼んでいます。水盆の規模は東西12キロメートル、南北33キロメートルにおよび、南部にいくほど深く、最深部は地下約800メートルです。

京都は、こうした水の恩恵を受け、人々の生活の営みや多様な文化を発展させてきました。鎌倉時代からつくられる

豆腐や湯葉、糊や染料を洗い流す京友禅、独自の美意識を確立させた庭園や茶の湯など、水なしでは語れない文化や産業が現在に受け継がれています。

## 稲作の伝来から始まる伏見の酒造り

数ある京都の特産品の中でも、地下水を利用した日本酒の産地として知られるのが、京都市南東部に位置する伏見区です。「月桂冠」「黄桜」「宝酒造」など、日本を代表する酒造会社が現在も多数存在しています。その歴史は大変古く、『日本書紀』には「山城国俯見村」として記されており、平安時代には鳥羽上皇の「鳥羽離宮」に代表される貴族の別荘地として栄えました。幕末には坂本龍馬襲撃事件で知られる寺田屋や、薩摩藩、長州藩の藩屋敷が置かれるなど、文化や政治の重要な地域として知られます。

この地での酒造りの始まりは古く、周辺の遺跡発掘からも、そのことが伺われます。5世紀頃には、渡来氏族の秦人が京都盆地に移住し、酒造りに関わったと伝えられてい

ます。さらに8世紀には、平安京に酒を造る役所「造酒司」が置かれ、十数種類のお酒を祭礼にあわせて造っていました。ここで行われた高度な酒造りの影響によって、すぐれた技術が伝承されていったようです。1425(応永32)年、1426(応永33)年の酒屋名簿によると、京の洛中・洛外にはすでに342軒もの酒屋が存在していたと記されています。

## 秀吉・家康による伏見城下の発展と伏見酒

伏見のまちが大きく発展し、多くの酒屋が集まるようになったのは安土桃山時代。1592(文禄元)年に豊臣秀吉が伏見城を築城し、大きな城下町が形成されました。秀吉は、宇治川沿いに京都と大阪を結ぶ水運の拠点として「伏見港」を開港すると、巨椋池に流れ込む宇治川を切り離すとともに、伏見城の外堀を水運路として整備。また関西の主要街道すべてが伏見に集まるようにしたため、大阪と京都の水陸中継地として大きく発展していきました。秀吉の死後、天下を掌握した徳川家康も伏見城にとどまり、伏見は幕府の

直轄地となります。港には幕府公認の過書船や旅人たちの乗合船などが乗り入れ、交通と流通の基地として大きな役割を果たしていました。江戸時代には、豪商・角倉了以が高瀬川を開削し、伏見と京都が一本の水路でつながると、さらに伏見港に船が集中するようになり、伏見は京都、大阪、堺に次ぐ大都市を形成したのです。伏見が酒処として知られるようになったのはこの頃で、1599(慶長4)年の『多聞院日記』には「伏見酒」「伏見樽」などの名称が記されています。

1635(寛永12)年に参勤交代が課されると、西国から江戸に向かう大名が伏見に滞在するため、港町、宿場町として賑わいを増していき、酒の需要も増え、酒造業が盛んになっていきました。旅人や物資の往来が盛んになるにしたがって、地の利や良い水を求めて他の地域から移ってくる酒造家も少なくなく、1657(明暦3)年には、酒造免許にあたる「造酒株」がはじめて制定され、免許者に限り酒造が許可されるようになりました。当時、伏見の酒造家の数は83軒という記録も残っており、国内有数の酒処となりました。



1. 伏見のまちに湧き出る伏流水  
2. 坂本龍馬が襲撃された場所としても知られる寺田屋。江戸時代に、淀川を行き来する船旅の観光客で賑わった船宿です  
3. 秀吉が建てた伏見城は1619年に廃城となり、現在の伏見桃山城はかつてこの場所にあった遊園地のシンボルとして建てられた模造天守。この城の南側に位置する明治天皇陵のあたりに、かつて豊臣秀吉が再建した伏見城の本丸があったとされています  
4. 淀川舟運の基地として栄えた伏見港は、港の舟溜りを埋め立て、京都府立伏見港公園として整備されています  
5. 酒処を感じさせる伏見のまち並み  
6. 濠川と旧高瀬川の合流点に残る角倉了以翁水利紀功碑



## 時代のうねりの中で迎えた伏見酒の危機

しかし、当時の酒造りは菌によって腐ってしまったり、火を使うため火災が発生したりと困難が多く、長く事業を続けることが難しい時代でした。幕府からも、酒造りに対する厳しい制限が頻りに課されるようになっていきました。京のまちには、伊丹(兵庫県)の酒が参入するようになり、伏見には、江州(滋賀県)から安価な酒が移入され、販売面でも不利な状況に陥ってしまいます。1697(元禄10)年からは、幕府が「酒運上」と呼ばれる厳しい税を課することが決まり、伏見の酒造家の数や生産量は減少の一途をたどっていきました。

さらに打撃となったのが、幕末に伏見で勃発した「鳥羽・伏見の戦い」です。1868(慶応4)年に、薩摩藩・長州藩・土佐藩などを中心とした新政府軍と、江戸幕府最後の将軍となった徳川慶喜を擁した旧幕府軍が、激しい戦いを繰り広げました。伏見のまちの多くが戦火で焼かれた中、戦火を免れて幕末まで事業を続けられた酒造業者は、1657(明暦3)年の造酒株83軒のうち、笠置屋(現・月桂冠)と鮎屋(現・北川本家)の2軒のみ。経済も混乱をきたし、酒造業の経営はとてつもない困難なものとなっていき、多くの旅客の往来で栄えた伏見のまちは寂れて、伏見酒も大きな危機を迎えました。

## 苦難を乗り越え、市場を全国へ

至難にぶつかった伏見の酒造家たちですが、決してあきら

めることはありませんでした。地域が一体となって戦火で被災した蔵元の酒造りを分担したり、他産地から造酒株を買取ったりするなど努力を重ね、生産を維持したのです。そして時代が明治に入ると、水上交通で結ばれていた伏見と京都・大阪・奈良との間には鉄道が敷かれるようになり、1877(明治10)年には大阪・京都間、1889(明治22)年には東海道線が全線開通しました。東京における需要が回復する兆しを見て取った伏見の酒造家たちは、陸部に位置する不利な地理的条件を克服するために、船から鉄道へと輸送手段の移行を急速に進め、いち早く東京の間屋筋と交渉を始め、市場を全国へ拡大していきました。

明治期以降は、京都市街から南部の伏見へ転入する酒蔵も現れ、酒産業の集積がさらに進みました。1909(明治42)年1月に、月桂冠が業界に先駆けて酒造研究所を創設、それに続いて伏見酒造組合も醸造研究所を設立し、酒造りに科学的技術を導入することで品質を向上させていきました。また、月桂冠は密封した瓶詰めによる防腐剤不使用の清酒を売り出すことに成功し、伏見酒の名前は一気に全国へと広がります。1913(大正2)年には伏見醸友会が設立され、伏見地区が一丸となって伏見酒の品質や技術の向上に意欲的に取り組みました。全国の品評会などで上位入賞し評価を高めると、伏見は灘とならぶ酒処へと成長を遂げていきました。



1. 現在も豪華華麗な桃山文化の名残をとどめる御香宮神社。伏見一帯の総氏神として、多くの人から信仰を集めています  
2. 江戸時代には瀬川を往来する廻船の守護神として信仰を集めた長建寺にある「関伽水」。「関伽水」とは仏に供える水のことです  
3-4. 伏見の蔵元の日本酒を取り揃える伏見夢百衆

## 「伏水」の名に記された、酒造りを支える名水。

### 酒処伏見を育てた名水たち

今も昔も、伏見の酒造りを支え続けてきたのは、豊富で良質な地下水です。伏見は、江戸時代には「伏水」と記されていた程に、質の高い伏流水に恵まれた土地だったことを表しています。日本酒は8割が水でできているため、その水質が酒の香りや味わいに大きな影響を与えることから、伏見の酒造りの隆盛を支えてきました。

伏見の地下水は、古くは、酒造りに適した「七つ井」と呼ばれる石井・白菊井・春日井・常磐井・苔清水・竹中清水・田中清水が知られていました。今ではその多くが埋められてしまいましたが、新しく、御香宮神社「御香水」・長建寺「関伽水」・月桂冠大倉記念館「さかみづ」・鳥せい本店「白菊水」・料亭清和荘「清和水」・藤森神社「不二の水」・城南宮「菊水若水」が伏見7名水として選ばれ、現在に引き継がれています。中でも御香宮神社の境内にある「御香水」は862(貞観4)年に湧き出た清水で、1985(昭和60)年に環境庁(現 環境省)の名水百選にも選ばれた名水です。御香宮神社は、元々は御諸神社という名前でしたが、平安時代に神社の境内から香りのいい水が湧き出し、それを飲むと病が治ったことから、清和天皇より「御香宮」の名を賜いました。また、徳川頼宣、頼房、義直は、この水を産湯に使ったとも言われ、霊水として信仰されています。他にもさまざまな

伝説の残る伏見の名水は、今でも多くの地域住民が水を汲みにやっています。

### 灘は男酒、伏見は女酒

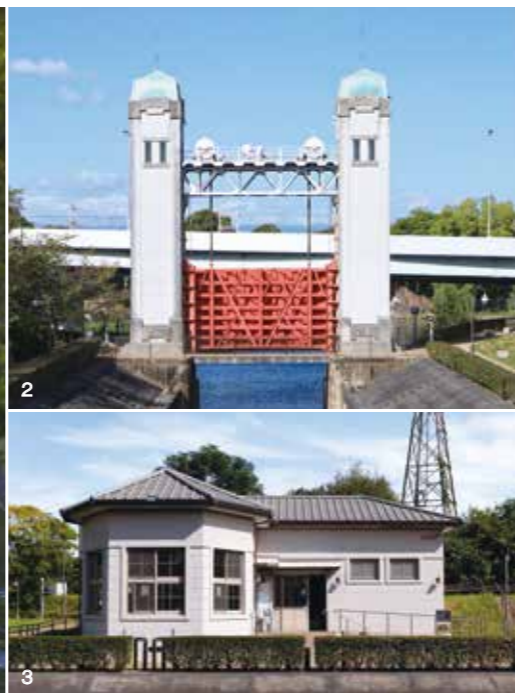
伏見の地下水の水質は、鉄分が0.006mg/Lと極端に少なく、カリウム、カルシウムなどのミネラルをバランス良く含んだ硬度60~80mg/Lの中硬水。酒を着色させてしまう作用がある鉄分は少ない方がよいことから、酒造りには適した水であると評価されています。この水で造られる伏見の酒は、比較的長い時間をかけて発酵させるため、酸は少なめ、なめらかなのできめ細かい、淡麗な風味を生み出しています。灘の酒が硬度の高い地下水を用いて、力強く、ドライな味わいを持つ「男酒」と呼ばれるのに対して、伏見の酒は「女酒」と呼ばれ、素材の味を生かす出汁をかきさせた伝統的な京料理との相性がとても良いと言われています。

2020(令和2)年の都道府県別の日本酒の生産量は、兵庫県に次いで京都府が2位ですが、そのほとんどが伏見で造られています。現在、伏見酒造組合には21社1組合が所属し、蔵元間の結びつきが強い風土が残っています。蔵や記念館を公開する企業も多く、各蔵元の日本酒を飲み比べできる飲食店や酒にちなんだイベントなども活発に行われ、酒文化がまちに根付いています。



1. 月桂冠が運営する「月桂冠大倉記念館」。1909年に建造された酒蔵を改装し、酒造道具類や月桂冠に残る貴重な資料や歴史などを展示しています  
2. 鳥羽伏見の戦いの際、笠置屋を営んでいた大倉家の本宅の目の前まで戦火が迫り、店員たちが力を合わせて消火活動に励んだと言われており、その際に使用した手動式の消防ポンプ  
3. 1910年に発売した販売酒「コップ付小びん」(大倉式猪口付びん)。人気に火がつき、全国に月桂冠が知られていきました





1. かつて伏見港に発着していた三十石より一回り小さい十石舟が、観光船として濠川を巡っています  
 2. 淀川舟運を支え、地域のシンボルでもある三栖閘門。周辺には芝生広場や十石舟の発着所などが設置されています  
 3. 三栖閘門を操作していた当時の建物を復元してつくられた三栖閘門資料館

## 酒文化が息づくまち並みを守り続けるために。

### 地域で取り組む水環境の保全

現在の伏見では、大切な地下水を守るため、さまざまな調査や取り組みが行われてきました。1928(昭和3)年に地下鉄計画が持ち上がった際には、伏見酒造組合が中心となって大規模な調査を有識者に依頼。その結果をもとに地下水の枯渇を避けるために熱心な陳情を展開しました。その後も高度経済成長の中、1977(昭和52)年に「伏見地下水保存委員会」を発足させて地下水保護活動を本格化し、定期的な調査や研究を行って地下水流の挙動を把握するなど、長年にわたる地道な努力で名水を守り続けています。

一方で、地表を流れる河川の役割も、時代とともに変化していきました。かつて水運で賑わった伏見港が1968(昭和43)年に埋め立てられ、次第に濠川の川幅も縮小していき、美観も損なわれる状況が続きました。この状況に危機感を抱いた月桂冠では、1987(昭和62)年に創業350年を迎えた記念として「濠川クリーンアップ作戦」を実施し、社員総出で河畔の清掃活動を実施。その後も、地域の人たちが奉仕活動を行うようになり、併せて自治体や地域の団体も濠川の遊歩道の整備や植樹、河川公園の造営などの施策に積極的に乗り出し始めました。企業と地域が一体となって、歴史ある風景を守るための取り組みを行っています。

### 銘酒を醸す水のまちの風景

さらに近年は、伏見を取り巻く歴史や文化を再評価しようという動きも起こっています。地域の人や有識者によって議論や検討が行われ、2003(平成15)年に、第3回世界水フォーラムの一環として三栖閘門周辺を「伏見みなと広場」として整備し、資料館を創設。伏見の歴史や文化を語り継ぐ親しみあふれる空間として生まれ変わりました。三栖閘門は、水位の異なる濠川と宇治川を結ぶため、水位を調整して船の往来を支える水門として1929(昭和4)年に設置されましたが、舟運の終了とともにその役目を終えていました。ここに再び水を引き入れ、江戸時代に物資の運搬に使われていた小型船を観光船「十石舟」として復刻し、多くの観光客に人気を集めています。また2021(令和3)年4月には、「日本唯一の川の港」である伏見港が国土交通省の「みなとオアシス」に登録され、新たな地域振興として期待されています。

酒蔵の白壁や黒い焼き杉板の外壁、その間を流れる濠川から眺める風情あふれるまち並み。伏見はどこに居ても水の文化が漂っています。銘酒を醸す伏見の名水は、地域の人にとってもかけがえのない水資源です。産業に、暮らしに、観光に、これからもさまざまな形でまちに潤いと安らぎを与えてくれるでしょう。



## 名水のまちに銘酒あり!? 日本全国に広がる「銘酒」×「名水」マップ

酒造りに使用する水は、日本酒の味わいを左右するほどに大きな要素となっており、多くの蔵では周辺を流れる河川の伏流水や湧き水を使って日本酒を醸しています。名水のあるところに銘酒ありと言われるように、名水を求めて蔵造所を移動する酒蔵もあるほど。日本各地の名水で仕込まれた、個性豊かな日本酒をご紹介します。

…仕込水に使用している名水

**01- 鳥根**  
お茶の水井戸  
月山 芳醇辛口純米  
吉田酒造株式会社

江戸時代広瀬藩の歴代藩主が愛飲し「不味流茶道」で最高の水と言われた名水「お茶の水井戸」を復元して使用。「日本一やわらかい水」と言われる硬度0.3mg/Lの超軟水で、華のある、透き通るような味わいをつくり出しています。

**02- 京都**  
京・伏見の伏流水  
鳳麟 純米大吟醸  
月桂冠株式会社

桃山丘陵をくぐった清らかな水が長い年月をかけて山麓近くで湧き出した地下水は、カルシウムやマグネシウムなど硬度成分をほどよく含んだ中硬水。丁寧に細やかに醸しあげているため、みずみずしく芳醇な余韻が残ります。

**03- 石川**  
白山美川伏流水群  
手取川 純米大吟醸 本流  
株式会社吉田酒造店

白山連峰を源とし、手取川河口付近で湧き出る伏流水を汲み上げて使用しています。山田錦を45%まで精米し、低温小仕込みでじっくりと仕込んだ味わいは、料理の味を損なわない優しい蜂蜜のような香りが特徴です。

**04- 山梨**  
八ヶ岳南麓高原湧水群  
純米大吟醸生酒 古銭屋の酒  
谷櫻酒造株式会社

富士山付近の水源林や山麓から火山岩に浸透した、森の香りを感じる弱軟水を古井戸から汲み上げて使用。アルコール度数が高く味わいのある口当たりが楽しめ、和食だけでなく洋食や揚げ物にも合います。

**05- 群馬**  
神流川源流  
流輝 純米吟醸  
無ろ過生 五百万石  
松屋酒造株式会社

神流川の地下水に井戸を掘り仕込み水を採用。マグネシウム含有量の多い中硬水で、日本全国の高品質な酒造好適米を使用しています。季節に合わせた期間限定のお酒を用意し、その時期だけの味わいが楽しめます。

**06- 福岡**  
岩屋湧水  
純米酒 福稲  
片岡酒造

福岡県内で唯一、平成の名水百選に選ばれた岩屋湧水の軟水を贅沢に使い、1898年から変わらない製法を継承した伝統の味です。キリッとした辛口のものから、飲みやすく口当たりのよいもので、幅広い層に愛される逸品です。

**07- 愛媛**  
つづら淵  
純米酒 華姫桜  
近藤酒造株式会社

蔵に程近い「つづら淵」は、龍の伝説が残る、愛媛県で唯一の平成名水百選に選ばれた名水。「華姫桜」は、地元の米を使用し、地下約100mから汲んだ軟水で醸しており、新居浜市唯一の地酒としても愛されています。

**08- 兵庫**  
宮水  
純米大吟醸 瑞兆  
沢の鶴株式会社

西宮市内の特定地域に湧く「宮水」は、乳酸菌や酵母菌の発酵を促すリンやカリウムが豊富で鉄分が少ない硬水。酒造好適米「山田錦」を47%まで磨きじっくりと醸した味わいは、濃厚なコクと華やかな香りを感じられます。

### MEMO 軟水と硬水の違いとは?

地下水は水が通過する地層によって特徴が表れますが、ミネラル分を多く含む水を「硬水」、少ない水を「軟水」と呼び、硬度を目安に区分します。日本酒の仕込み水で使用した場合、ミネラル成分は酵母の栄養源となるため、「硬水」はアルコール発酵が活発になり、辛口のテイストになりやすいと言われます。ミネラル成分が少ない「軟水」は、アルコール発酵が穏やかで甘みが残った、やわらかい飲み口になりやすいのが特徴です。



※硬度は、水1リットル(L)に溶けているカルシウムとマグネシウムの量を、炭酸カルシウム(CaCO<sub>3</sub>)の重量(mg)に換算した数値(mg/L=ppm)で表し、その測定法はJIS(Japanese Industrial Standards, 日本産業規格)に定められています。



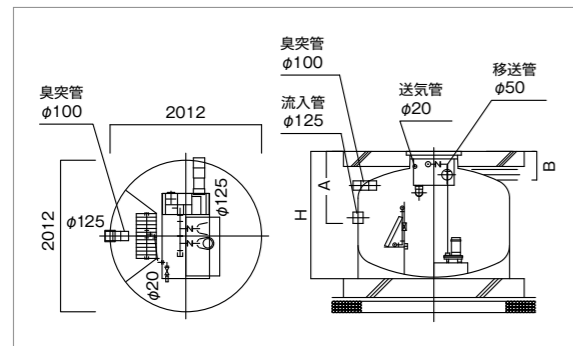
新製品  
中型・小型浄化槽に最適  
コンパクトタイプの原水ポンプ槽を  
2機種発売しました!

フジクリーンは、2023年10月より、原水ポンプ槽「GP20-B6(25~35人槽用)」  
「GP20-B7(14~21人槽用)」の2機種の販売をスタートしました。全高1,890ミリ  
メートルと1,690ミリメートルのコンパクトタイプで、中型・小型浄化槽に最適  
です。これにより、全高超浅型のCV型において、すべての人槽でフラット施工が可能  
になりました。



GP20-B6 製品イメージ

■ 平面断面図



■ 仕様

機種	[型]	GP20-B6	GP20-B7
最大容量 [m³]	GP部/BS部	0.46/0.23	0.78/0.29
各部寸法 [mm]	最大幅: W	2,012	
	全高: H*1	1,890	1,690
	流入管底: A*1	1,030	950
	流入管径	125	
	移流管底: B*1	380	
	移流管径	125	
マンホール	700*1,200		
目安重量*2	[kg]	560	550
本体価格(税抜)	[円]	オープン価格	

\*1. 嵩上げの無い場合のGLからの寸法を示します

\*2. ポンプを除いた重量です \*各部寸法は外寸法で示しています

Web  
サービス  
浄化槽の設置や維持管理などの  
業務をサポートするWebサイトコンテンツをご紹介します!

フジクリーンのWebサイトでは、浄化槽にかかわる人の業務をサポートする便利なコンテンツをご用意しています。  
簡単な操作で、欲しい情報を入手でき、設計事務所、施工会社、維持管理会社の方々をバックアップします。

■ 処理対象人員算定シミュレーター

浄化槽を設置する建物の建築用途と算定単位を入力  
するだけで、人員算定ができるコンテンツです。算定結  
果はエクセル形式でダウンロードできる  
ので、申請時の算定根拠資料としても利  
用でき、申請に必要な作業を軽減します。



■ ダウンロードコンテンツ

浄化槽の申請、施工、維持管理まで、工程ごとに必要  
な書類が一括でダウンロードできます。さらに、メール  
アドレスを登録すると、ご希望の書類に関  
する更新情報をメールでお知らせする便  
利な機能も搭載しています。



お知らせ  
型式認定番号更新のお知らせ

この度、CV型、PV型、CRX型(14~25人槽)の型式認定  
番号が、定期更新(5年)により変更になりました。今後の確認  
申請の際は、更新後の型式認定番号にて申請をお願いいたし  
ます。更新後の申請関連書類は、CV型、CRX型(14~25人  
槽)はフジクリーンのWebサイトから取得いただけます。PV  
型は、フジクリーンの最寄り事業所へお問い合わせください。

CV型、CRX型(14~25人槽)  
の更新書類のダウンロードは  
こちらからどうぞ



■ CV型

名称	型式認定番号	
	更新前	更新後
CV-12型	5-19-H-009	5-23K-H-009
CV-14型	5-19-H-009-1	5-23K-H-009-1
CV-16型	5-19-H-009-2	5-23K-H-009-2
CV-18型	5-19-H-009-3	5-23K-H-009-3
CV-20型	5-19-H-009-4	5-23K-H-009-4
CV-21型	5-19-H-009-5	5-23K-H-009-5
CV-25型	5-19-H-009-6	5-23K-H-009-6
CV-28型	5-19-H-009-7	5-23K-H-009-7
CV-30型	5-19-H-009-8	5-23K-H-009-8
CV-35型	5-18-H-003	5-23K-H-007
CV-40型	5-18-H-003-1	5-23K-H-007-1
CV-42型	5-18-H-003-2	5-23K-H-007-2
CV-45型	5-18-H-003-3	5-23K-H-007-3
CV-50型	5-18-H-003-4	5-23K-H-007-4

■ PV型

名称	型式認定番号	
	更新前	更新後
PV-51A~400A型	5-19-H-006	5-23K-H-008
PV-51B~800B型	5-19-H-006-1	5-23K-H-008-1

■ CRX型(14~25人槽)

名称	型式認定番号	
	更新前	更新後
CRX-14型	5-18K-H-004	5-23K-H-006
CRX-18型	5-18K-H-004-1	5-23K-H-006-1
CRX-21型	5-18K-H-004-2	5-23K-H-006-2
CRX-25型	5-18K-H-004-3	5-23K-H-006-3

働きがい  
向上紹介  
12  
社員の英語力を向上させる  
オンライン英会話教室の利用促進

フジクリーンでは、社員の英語力向上をサポートするために、  
オンライン英会話教室の利用制度を設けています。社員であれ  
ば誰でも受講することができ、受講料は全て会社が負担します。  
2023年度は全社員の約1割にあたる54名がこの制度を利用  
し、英語の習得に励んでいます。

海外事業が拡大する中、フジクリーンはグローバルに活躍す  
る人材の育成に取り組んでいきます。



[制度を利用した社員の声]

- マンツーマンで指導してもらえらるため  
スピーキング力が上がった
- スマホでも受講できるため、気軽に取  
り組める点が良かった
- 日常的な会話表現が身につく、表現  
力が向上した
- 全くの初心者だったが、英語で話す  
ことへの抵抗感がなくなり、プレゼン  
ができるレベルまで上達することが  
できた

もっと  
motto!  
広げよう

水環境をきれいに  
する取り組み

〈愛知県豊田市〉  
上高湿地を守る会



会長 鈴木 敏朗さん(中)  
副会長 田中 新二さん(左)  
会計 三宅 幸夫さん(右)

## かみたか 貴重な「上高湿地」の自然を守り、 育んでいく地域とのつながり。



▲ 記念品の鉛筆



近隣小学校による合同学習会

▶ 雑草の  
運び出し作業



子どもたちと一緒に看板を設置

愛知県豊田市にある上高湿地は、周辺を低い山に囲まれた谷あい位置している湧水湿地です。2012(平成24)年に、同じく豊田市にある矢並<sup>やなみ</sup>湿地・恩真<sup>おんしん</sup>寺<sup>じ</sup>湿地とともに「東海丘陵湧水湿地群」としてラムサール条約の登録湿地になることを受け、市が保全活動団体の設立を要請。地元有志が集まり2011(平成23)年に「上高湿地を守る会」が発足されました。上高湿地には、溜池を中心に3つの湿地帯があり、その植生から「シラタマホシクサの湿地」「シデコブシの湿地」「トウカイコモウセンゴケの湿地」と名前がつけられています。3カ所の異なる地形の中で、春先にはシデコブシ、夏にはトウカイコモウセンゴケなど、季節ごとに多種多様な植生を観察することができることも大きな魅力です。

こうした貴重な自然環境を守るため、上高湿地を守る会では1年を通じて湿地の管理・保全活動を行っています。湿地に生息する植物は痩せた土地に生育するので、取り除いた草や木が栄養になることを防ぐた

め湿地の外へ運び出す作業も必要です。また近隣の小学校で行われる湿地学習や、地域の自然観察会にも積極的に協力しており、こうした交流が活動の励みにもつながっています。子どもたちは植物や湿地の手入れに関わりながら、専門家から稀少植物の生態や特徴を学び、6年生は1年の総まとめとして全校生徒や保護者に向けた学習発表会を行っています。また現地には、これまでに子どもたちが作製してきた説明看板などが各所に設置されており、地域への愛着とつながりを感じることができます。

長年にわたる活動は、社会的にも広く評価されており、「令和3年度環境保全関係労務者表彰」「令和5年度地域環境美化功績者表彰」を受賞。受賞の記念品としてつくった鉛筆は、これまでの感謝を込めて小学校の子どもたちへ寄贈されました。今後も、会員間はもちろん、住民や学校、自治体など、地域との交流を育みながら、この地に残された「上高湿地」の大切な生態系を守り、引き継いでいきます。

美しい水を守る  
フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市中区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	宇都宮営業所 (028)625-4650	三重営業所 (059)213-5520	宮崎営業所 (0985)32-3064
東北支店 (022)212-3339	群馬営業所 (027)327-5611	和歌山営業所 (073)422-3634	鹿児島営業所 (099)257-3501
東京支店 (03)3288-4511	埼玉営業所 (048)660-5050	広島営業所 (082)843-3315	沖縄営業所 (098)862-9533
名古屋支店 (052)249-5100	千葉営業所 (043)206-5171	高松営業所 (087)869-8680	
大阪支店 (06)6396-6166	新潟営業所 (025)271-8668	松山営業所 (089)967-6123	
福岡支店 (092)441-0222	山梨営業所 (055)275-9300	高知営業所 (088)803-1520	
盛岡営業所 (019)604-2527	松本営業所 (0263)27-2080	佐賀営業所 (0952)31-9151	
郡山営業所 (024)937-0800	岐阜営業所 (058)271-1131	熊本営業所 (096)388-3571	
茨城営業所 (029)851-0031	静岡営業所 (054)286-4145	大分営業所 (097)558-5135	



発行 2024年1月1日  
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室